

Ⅱ－２ 地下水の水質測定計画実施要領

この要領は、令和8年度の地下水の水質測定計画に基づく調査の実施にあたり必要な事項を定める。

1 試料の採取容器及び採取方法

試料の採取は、取水施設から流出する地下水の水温が一定となった後、下表のとおりに行う。

項目	試料容器			試料容器の洗浄方法等に係る特記事項	採取方法に係る特記事項
	種類	容量	本数		
重金属（総水銀、アルキル水銀を除く）	ねじ口瓶（ポリ、ガラス）	1～5L	1～5	酸洗浄	—
全シアン	ねじ口瓶（ポリ）	1L	1	—	水酸化ナトリウムを加え、pHを12にする。
総水銀	共栓瓶（ガラス） 又はねじ口瓶（ガラス）	250mL	1	酸洗浄	—
アルキル水銀	ねじ口瓶（ガラス）	1L	1	酸、トルエンで洗浄	—
PCB	ねじ口瓶（ガラス）	1～2L	2	アセトン、n-ヘキサンで洗浄。原則として採水日前1週間以内に行う。	泡立てないように静かに採水した後密栓する。容器は満水にはせず、若干の空間を残す。
農薬（1,3-ジクロロベンzenを除く）	ねじ口瓶（ガラス） 又はガロン瓶	1～4L	2	同上	同上
揮発性有機化合物（クロエチレンを除く。）及び1,3-ジクロロベンzen	ねじ口瓶（ガラス） 又はふらん瓶	250mL	2	105℃で3時間以上加熱する。測定対象物質の汚染のない場所で放冷後キャップ（栓）をして保存する。この操作は原則として採水日前1週間以内に行う。	泡立てないように静かに採水した後、容器に気泡が残らないよう満水にし、密栓する。
クロロエチレン	ねじ口瓶（ガラス） 又はふらん瓶	250mL	2	同上	同上
1,4-ジオキサン	ねじ口瓶（ガラス） 又はふらん瓶	250mL	2	揮発性有機化合物と同時分析する場合、同上とし、試料容器を兼ねる。	同上
		250mL～1L	2	アセトンで洗浄後、120℃で2時間以上加熱する。測定対象物質の汚染のない場所で放冷後キャップ（栓）をして保存する。この操作は原則として採水日前1週間以内に行う。	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ねじ口瓶（ポリ）	500mL	1	新品の容器を洗浄しないでそのまま使用する。	—
ほう素	ねじ口瓶（ポリ）	100mL	2	同上	—
PFOS及びPFOA	ねじ口瓶（高気密ポリプロピレン）	500mL	2	メタノール洗浄	ステンレス製のバケツやロートを使用する。泡立てないように静かに採水した後密栓をする。容器は満水にはせず、若干の空間を残す。
上記以外の一般化学試験	ねじ口瓶（ポリ）	1～5L	—	—	—

- 注) 1 窒素関係とほう素以外の試料容器は予め洗剤洗浄を行う。
 2 採水の際、PCB以外の試料容器は必ず共洗いする。
 3 試料容器の洗浄は原則として分析機関が行うこととする。
 4 採取容器の洗浄については、JIS K 0094及び「新しい水質環境基準とその分析法」（環境化学研究会、1993）に従って行う。
 5 上記の試料容器や洗浄方法は一例であり、必要に応じて同等以上の方法に変更してもよい。

2 現地調査項目

別紙1の現地調査票により、全ての採水時に、調査地点の緯度・経度、天候、気温、水温、試料の色、臭気及び井戸の諸元等を調査する。

3 調査結果の報告

調査結果はExcel形式の電子媒体により報告する。

なお、県の調査地点で地下水汚染が確認された場合は、土壌・地下水汚染対策要領に基づき、適切に対応すること。

また、県の採水機関は新規汚染井戸周辺地区調査、継続監視地点変更時調査及び継続監視終了時調査の結果について、上記に加え、別紙2により報告すること。

4 その他

採水機関が他の機関に検体を送付する場合及び分析機関からの結果報告は、別紙3の送付書により行う。ただし、新潟市、長岡市及び上越市を除く。

別紙 1

現 地 調 査 票

井戸番号		所在地	
所有者(代表者)			
緯度		経度	
採水年月日	西暦の下2桁を記入する。 2026年7月23日 → 26.07.23		
採水時刻	24時間表示とする。 午後2時10分 → 14:10		
天候	1 快晴 2 晴れ 3 薄曇り	4 曇り 5 小雨 6 雨	7 大雨 8 みぞれ 9 雪
気温	小数1桁とし、小数2桁は切り捨てとする。 12.56 → 12.5		
水温	小数1桁とし、小数2桁は切り捨てとする。 12.56 → 12.5		
試料の色	01 無色 02 乳白色 03 灰色 04 暗灰色 05 黒灰色 06 淡黄色	07 黄色 08 淡かっ色 09 かっ色 10 灰かっ色 11 黄かっ色 12 茶かっ色	13 赤かっ色 14 黒かっ色 15 黄緑色 16 緑色 17 緑灰色 18 黒色
臭気	01 無臭 11 微芳香性臭 12 中 〃 13 強 〃 21 微植物性臭 22 中 〃 23 強 〃 31 微土・カビ臭 32 中 〃 33 強 〃 41 微魚介臭 42 中 〃 43 強 〃	51 微薬品臭 52 中 〃 53 強 〃 61 微油臭 62 中 〃 63 強 〃 71 微硫化水素臭 72 中 〃 73 強 〃 81 微金属臭 82 中 〃 83 強 〃	91 微下水臭 92 中 〃 93 強 〃 14 微し尿・フン臭 15 中 〃 16 強 〃 24 微バルブ臭 25 中 〃 26 強 〃 34 微その他不快臭 35 中 〃 36 強 〃
設置年月	1 明治(又はそれ以前) 2 大正 3 昭和 年月 4 平成 年月 5 令和 年月		
井戸の形式	1 手堀井戸 2 機械堀井戸 3 自噴井戸 4 湧水 5 その他()		
井戸の形態等	井戸径φ mm ポンプ吐出口径φ mm 深度 m ストレーナー位置 ~ m		
取水施設	1 電動ポンプ 2 手押しポンプ 3 つるべ 4 自噴、湧水 5 その他()		
貯水施設	1 なし 2 貯水槽あり 3 圧力タンクあり		
使用目的	1 飲料水 2 生活雑用水 3 消雪用 4 業務用原料水 5 業務用雑用水 6 冷房・冷却用 7 その他()		
使用状況	1 毎日使用 2 時々使用 3 季節により使用 4 不使用 5 その他()		
使用量	1日 □ 使用人数 戸 人		
水量	1 水量が多く涸れない 2 春涸れる 3 夏涸れる 4 秋涸れる 5 冬涸れる 6 最近涸れやすい 7 その他()		
上水道の有無	1 上水道供給無し 2 上水道と併用		
塩水化の影響	1 塩水の影響あり 2 塩水の影響なし 3 影響の有無不明		

別紙 2

〇〇市（町、村）〇〇地区
（新規汚染井戸周辺地区調査・継続監視地点変更時調査・継続監視終了時調査）
調査結果報告書

年 月 日
〇〇環境センター

1 経緯

2 周辺地区調査結果

- (1) 調査対象地区の概況（井戸設置状況、地下水利用状況、土地利用状況、地下水の流動状況等）

- (2) 水質調査結果（調査井戸（地点図添付）、調査結果、検出井戸の状況等）

- (3) 汚染原因（者）の詳細（所在地、名称、業種、有害物質の使用状況、汚染原因等）

3 今後の対応

- (1) 井戸所有者及び周辺住民への対応（井戸所有者及び周辺住民への周知、飲用指導等）

- (2) 汚染原因者に対する措置

- (3) 汚染原因者の対応（汚染機構解明調査、追加汚染防止対策、浄化対策等の実施状況等）

- (4) 継続監視調査

地下水検体（検査結果）送付書

採水機関名：

分析機関名：

採水年月日： 年 月 日

調査の種類 (該当する調査に☑をつけること)	☐ 概況調査 ☐ 汚染井戸周辺 ☐ 継続監視		☐ 概況調査 ☐ 汚染井戸周辺 ☐ 継続監視		☐ 概況調査 ☐ 汚染井戸周辺 ☐ 継続監視		環境基準 値 又は 指針値	報告下限値
	井戸番号							
カドミウム (mg/L)							0.003	0.0003
全シアン (mg/L)							検出されないこと	0.1
鉛 (mg/L)							0.01	0.005
六価クロム (mg/L)							0.02	0.01
砒素 (mg/L)							0.01	0.005
総水銀 (mg/L)							0.0005	0.0005
アルキル水銀 (mg/L)							検出されないこと	0.0005
PCB (mg/L)							検出されないこと	0.0005
ジクロロメタン (mg/L)							0.02	0.002
四塩化炭素 (mg/L)							0.002	0.0002
クロロエチレン (mg/L)							0.002	0.0002
1,2-ジクロロエタン (mg/L)							0.004	0.0004
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)							0.1	0.01
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)								0.002
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)								0.002
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)							0.04	0.004
1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)							1	0.0005
1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)							0.006	0.0006
トリクロロエチレン (mg/L)							0.01	0.001
テトラクロロエチレン (mg/L)							0.01	0.0005
1,3-ジクロロプロパン (mg/L)							0.002	0.0002
チウラム (mg/L)							0.006	0.0006
シマジン (mg/L)							0.003	0.0003
チオベンカルブ (mg/L)							0.02	0.002
ベンゼン (mg/L)							0.01	0.001
セレン (mg/L)							0.01	0.002
硝酸性窒素 (mg/L)								0.01
亜硝酸性窒素 (mg/L)								0.01
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 (mg/L)							10	0.02
ふっ素 (mg/L)							0.8	0.1
ほう素 (mg/L)							1	0.1
1,4-ジオキサン (mg/L)							0.05	0.005
PFOS (ng/L)								0.5
PFOA (ng/L)								0.5
PFOS及びPFOA (ng/L)							50	1.0

注1) 分析する項目には成績記入欄の左肩に (° (アルキル水銀は (△)) 印をつけてください。

注2) 総水銀とアルキル水銀の分析機関が異なる場合、総水銀の結果が出次第、アルキル水銀の分析機関へ連絡してください。

